

授業の視点

作者の考え方や生き方について考える場面において、既習の学習でまとめてきたものや友達の考えを確認することは、自分の考えを深めるために有効であったか。

I 単 元 やまなし

II 単元(題材等)設定の理由

(1) 教材観

本教材「やまなし」は、かのに親子の目から見た小さな谷川に起こる出来事を描いた宮沢賢治の作品である。この谷川の底の様子や出来事は、「幻灯」として表現したものであり、「生と死」「光と影」「奪うものと与えられるもの」が対比された世界が描かれている。また、そこには造語や比喩表現、擬声語や擬態語など作者独特の表現が使われている。このことから、「やまなし」は、作者自身の内面を描き出した作品として、登場人物や場面の描写を叙述に即して読み取るとともに、作者の生き方・考え方と関連付けて捉えることがしやすい教材である。また、「イーハトーヴの夢」や「雨ニモマケズ」の読み取りを行うことで、作者と作品をより深く知るという体験を味わうことが期待できる。

(2) 目標

- ・比喩や反復などの表現の工夫に気づき、整理することができる。(知識及び技能)
- ・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。  
(思考力・判断力・表現力等)
- ・進んで物語の全体像を具体的に想像し、作品に込めた作者の思いについて自分が考えたことを文章にまとめようとするすることができる。(学びに向かう力、人間性等)

(3) 学習内容

〔知識及び技能〕

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

ク「比喩や反復などの表現の工夫」について気づき、整理する。

〔思考力・判断力・表現力等〕

Ｃ「読むこと」

(1) エ「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする。」

〔学びに向かう力、人間性等〕

物語の全体像を具体的に想像し、作品に込めた作者の思いを文章にまとめようとする。

(4) 系統性

児童はこれまで、5年に「たずねびと」で中心となる人物が出会う人やものの役割を考えるなどして、物語の全体像を想像する活動をしている。6年では、「帰り道」の後に本時を迎え、「ぼくのブック・ウーマン」「海の命」と続き、「豊かに感じたり想像したりする力」や「自分の思いや考えを広げる」ことにつながるように系統が組まれている。

III 児童の実態

IV 指導方針

○あずま北小学校校内研修の主題「自ら考え学ぶ児童の育成」の副主題「振り返りを意識した授業づくりを通して」に基づき、振り返りを行い、児童自身が学んだことを自分の言葉で表現したり、どの程度

理解したのか記入したりして自分の学びを振り返ることで、次時への主体的な取組につなげられるようにする。

○市の学校教育構想2024の「考え表現する力づくり」にある『なぜ?』『なるほど!』『もっとやってみよう!』を引き出す学びの充実」を目指すため、探求する場面では比較・検討を通して対話的な活動を行い、児童が自分の考えを持つことができるようにする。

#### 【つかむ】

- ・擬態語や擬音語は、児童の生活経験と結びつけることで、学習と生活とのつながりから関心を持つことができるようにする
- ・「谷川の底」や「青い幻灯」等の設定を確認し、初発の感想から物語の雰囲気を感じることで、学習に対しての目標をもつことができるようにする。
- ・作者の他作品を併せて読むことで、作者の生き方や考え方を深めることができるようにする。また、作者の考えや物語の構成をまとめた揭示物を作成し、振り返ることができるようにする。

#### 【追究する】

- ・2つの場面を比較しながら、作品の世界を想像することができるようにする。その際、物語に使われている表現、言葉に着目して情景を想像できるようにする。
- ・なぜやまなしという題名にしたのか考えることで、宮沢賢治が作品に込めた思いを想像できるようにする。
- ・他者の考えを知り、自分の考えと比較することで、自分の意見を比較し、より考えを深めることができるようにする。
- ・ICTを活用して、自分の考えやこれまでの学習を記録して、振り返ることができるようにする。
- ・考えの構築が滞らないよう電子黒板に既習の「五月と十二月の比較一覧」や「宮沢賢治の生き方」を提示できる準備をしておき、必要に応じて児童に見せるようにする。

#### 【まとめる】

- ・宮沢賢治の人物像や作品の世界を想像することを通して、どのような思いを作品にこめたのか考え、文章に表すことができるようにする。
- ・作品に込めた思いを想像して文章に表す際には、文章の独特な表現や2つの場面の比較などこれまで学習してきたことをふまえて表すようにする。

## V 本時の学習

### (1) ねらい

なぜ題名がやまなしなのか叙述や作者の生き方をもとに、自分の考えをもつことができる。

### (2) 準備

教師：教科書、電子黒板

児童：教科書、ノート、ワークシート、筆記用具、タブレット

### (3) 展開

| 学習活動                                                               | 支援及び留意点                                                                                                                                                             | 時間  | 観点評価項目（方法） |
|--------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------------|
| 1. 前時までの振り返りとめあての設定をする。                                            | ・ 題名のある意味を考えさせることで、題名には作者が特別な意味を込めていることを理解させることができるようにする。                                                                                                           | 5分  |            |
| <div>めあて    なぜ、宮沢賢治は題名をやまなしにしたのか<br/><br/>（作者の題名にこめた思いを考えよう）</div> |                                                                                                                                                                     |     |            |
| 2. なぜ、題名がやまなしなのか考える。                                               | ・ 電子黒板に五月と十二月の比較を提示し、それぞれどのようなことを表していたか振り返る事ができるようにする。                                                                                                              | 25分 |            |
| ○. 十二月で印象に残った場面を書き出す。                                              | ・ 十二月が何を表していたか考えたときに、どのような文や言葉に注目したかワークシートに書かせることで、やまなしを題名にした意味のヒントに注目できるようにする。                                                                                     |     |            |
| ○個人で最初の考えを書く。                                                      | ・ 上の活動で出したキーワードや五月と十二月の内容をもう一度確認するように声がけし、物語の内容やこれまでの学習活動を元に考えを書くことができるようにする。                                                                                       |     |            |
| ○小グループで意見交流を行い、考えをまとめる。                                            | ・ 3～4人程度で書き込んだワークシートの考えを伝える。その際に、画用紙を配布して、小グループで出た意見交換からやまなしを題名にした意味を考える際に大事なキーワードを書かせ、黒板に掲示する。<br>・ 「イーハトーヴの夢」や「雨ニモマケズ」から宮沢賢治の考えや理想を確認して、考えを深めるための材料にする。           |     |            |
| ○もう一度、自分の考えを振り返る。                                                  | ・ これまで考えたことや全体で共有したことを使って、最初の考えから変化したところを盛り込んで、最終的な考えを書く。その際に、やまなしの内容や宮沢賢治の考え方・理想から逸脱したものにならないように声がけする。<br>・ 変容が見られた児童や良い考えの児童は発表させることで、どのようにこれまでの考えを活かしたか分かるようにする。 |     |            |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |     |                                                                                                      |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             | <p>〔予想される評価ごとの児童の考え〕</p> <p>A：・熟して落ちてきたやまなしがかにの親子に喜びを与えたように、宮沢賢治も自分の体調よりも困った人を優先して助けていたから。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人々に喜びを与えるような存在であることが大切だから。</li> <li>・五月の表現からは恐怖や冷たい雰囲気を感じ、十二月では明るさや温かい雰囲気を感じるので、温かい優しい人になってほしいという思いから。</li> <li>・やまなしにより、命をつなぐことができたから。</li> </ul> <p>B：・全体的に十二月のほうがやさしい感じがするから。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カワセミはこわくて、やまなしはそうでないし、安全だから。</li> <li>・かにの兄妹が食べ物を手に入れ、お父さんもお酒を飲めるから。</li> <li>・どちらも自然だからあまり意味はないと思う。</li> </ul> <p>→既習での宮沢賢治の生き方を関連づけること、題名は物語の中心であることを意識させ、やまなしの視点からも考えさせる。</p> <p>C：・どちらも表現が幻想的できれい。でもなぜやまなしなのかわからない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(わからない。)</li> <li>・かにのあわが楽しそうだから。</li> </ul> <p>→五月と十二月の比較や掲示されたキーワードや文に着目させる。</p> |     | <p>【思・判・表】</p> <p>五月と十二月の場面でそれぞれ考えたことや宮沢賢治の考え方、交流した友達の考えを元に、やまなしという題名の理由を考え、表現している<br/>(ノート・発言)。</p> |
| 4. 振り返りをする。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初の考えと比べて、文章量が増えているかや、内容が増えたか、または変容しているかを、自己評価させる。</li> <li>・最終的な自分の考えをとなり同士の児童で発表する。また、良い意見のものはクラス全体でも共有させる。</li> </ul> <p>〔発表例〕</p> <p>○かわせみは自分から魚を取る場面と、熟して落ちてきたやまなしを落ちてくるまでかにの親子が待つ姿の場面から、自分勝手にしないことを伝えたいという想いがあるのだと思いました。</p> <p>○かわせみは自分のために魚を取ったけど、やまなしは熟れて落ちてかにの親子の酒になったところから、他人のために生きる事の大切さを伝えたいのだと思いました。</p> <p>○人間らしく生きたいという思いがあり、やまなしから喜びを得ているから、やまなしという題名が良いと思った。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 15分 |                                                                                                      |

単元計画

|      | 時        | 学習活動                             | 指導上の留意点                                                                               | 主な評価基準                                                        |
|------|----------|----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| つかむ  | 1        | ○教材文を読み、初発の感想から学習課題を設定する。        | ○感想は想像が膨らむように、内容についてはある程度幅をもたせるようにする。                                                 | 【態】<br>自分や他の人の初発の感想から学習課題を設定しようとしている。                         |
|      | 2        | ○イーハトーヴの夢を読んで宮沢賢治の人物像・理想を考える。    | ○イーハトーヴの夢の叙述から宮沢賢治の人物像・理想を想像させるようにする。                                                 | 【思・判・表】<br>宮沢賢治の人物像や理想について叙述や他の人の意見を元を書くことができている。             |
|      | 昼ぐん（時間外） | ○雨ニモマケズから宮沢賢治の考え方を深める。           | ○雨ニモマケズの叙述から宮沢賢治の生き方を想像させるようにする。                                                      | 【思・判・表】<br>宮沢賢治の考え方について叙述や他の人の意見を元を書くことができている                 |
| 探求する | 3        | ○やまなしを読んで分からなかったところを自分なりに考える。    | ○やまなしの独特の表現に注目させ、どのような意味なのか、何を表しているのか考えられるようにする。                                      | 【知・理】<br>比喩や反語などの表現の工夫に気づいている。                                |
|      | 4        | ○五月の場面は何を表しているのか考える。             | ○叙述から五月の場面が何を表しているのか考えることができるようにする。                                                   | 【思・判・表】<br>五月の部分について具体的に想像したり表現の効果を考えていたりしている。                |
|      | 5        | ○五月と比較させながら、十二月の場面は何を表しているのか考える。 | ○叙述から十二月の場面が何を表しているのか考えることができるようにする。<br>○五月と比較しながら対照的な作者の考えが分かるようにする。                 | 【知・理】<br>十二月の部分について具体的に想像したり表現の効果を考えていたりしている。                 |
|      | 6（本時）    | ○なぜやまなしという題名なのか考える。              | ○五月と十二月の場面でそれぞれ何を表しているか考えたことを比較させることと、宮沢賢治の考え方を振り返り、宮沢賢治がなぜやまなしに注目したのか考えることができるようにする。 | 【思・判・表】<br>五月と十二月の場面でそれぞれ考えたことや宮沢賢治の考え方から、やまなしという題名の理由を考えている。 |
| まとめる | 7        | ○宮沢賢治がやまなしで伝えたかった事は何か考える。        | ○これまでにまとめてきた学習から宮沢賢治の伝えたかった事を考えさせ、文書作成ソフトで入力するようにする。                                  | 【思・判・表】<br>物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりして、宮沢賢治の伝えたかった事について書いている。   |
|      | 8        | ○書いた文章を読みあい、学習を振り返る。             | ○共通点や相違点から感じたことを感想に書くことができるようにする。                                                     | 【態】<br>書いた文章から自分の考えを広げ、学んだことを今後活かそうとしている。                     |